

民主党神戸市会議員団 管外調査報告書

I. 日 時：平成25年5月17日（金）

II. 視察場所：①倉敷市西坂1709 NPO法人 工房かたつむり
（川崎医療福祉大学 種村教授）

②岡山県庁

III. 視察目的：

①岡山県における高次脳機能障害者支援の実際についての調査

心身障害者地域福祉作業所 工房かたつむり見学／川崎医療福祉大学 種村先生より支援普及事業について聞き取り調査

②岡山県における高次脳機能障害者支援の取り組みについて

IV. 対応者：

①川崎医療福祉大学 種村教授、工房かたつむり 高尾代表理事、岡山脳外傷友の会モモ 高尾理事

②岡山県庁 岡山県保健福祉部健康推進課主 八木任

（同行 神戸大学工学部大学院 羅教授、MTBI W J P 軽度外傷性脳損傷 Soc. 中井氏）

V. 調査者：川原田弘子

VI. 視察内容：

1. 工房かたつむりについて

- ・工房かたつむり資料—1
- ・高次脳機能障害の障がい者を対象に創設されたが、特化した作業所にはできないので、心身障害者地域福祉作業所の位置づけ。
- ・実際に通所する利用者は、ほとんどが高次脳機能障害を持つ。
- ・見学した際は、絵画の教室が開かれていた。プロの画家の方が教えに来られている。
- ・陶芸の施設も小さいが裏手にあり、利用者さんの作品はバザーなどで販売される。
- ・通常の作業所とほぼ同じ雰囲気。
- ・工房の土地は、理事長の個人資産であり、建物も理事長が建て、法人に貸し出している。
- ・設立から10年目を迎える。
- ・就労支援型ではなく、Ⅲ型。



2. 川崎医療福祉大学 種村教授 状況調査

- ・岡山県は、全国で10のモデル事業が公募された際に、当時「岡山脳外傷友の会モモ」会長の清水氏が県に働きかけてスタートした。
- ・精神、知的、介護、どこに行っても、馴染めず自宅にこもりがちな、高次脳機能障害の障がい者の人たちの通所できる場づくりとして、基本的な訓練を行っている。

- ・前頭葉にダメージを受けることが多く、自分を抑えることができない人が多い。
- ・記憶力などは訓練である程度回復する。
- ・時には、手をあげてしまったりする。本人には、理由がある。
- ・グループリハを実施しているが、認知機能を高めるだけでなく、社会的なスキルのアップにつなげる。
- ・通所により、就労につながった人もいる。(2名)
- ・高次脳外来には、2種類 脳血管障害と脳外傷
- ・脳血管障害の場合は、クリティカル・パスがあり、リハビリに進めるが、脳外傷の場合は、クリティカル・パスがなく、必ずしもリハビリに進むとは限らない。
- ・高次脳機能障害を診断、診ることができる医師が必要である。
- ・兵庫は整形外科がメインとなっており、神経心理は行っていないのでは？
- ・医療面での診断には、functional MRIのほか、いくつかの手段がある。
- ・身体障害を併発することが多く、身障手帳を持っていることが多い。

3. 岡山県庁 岡山県保健福祉部健康推進課 八木主任

- ・H14年からモデル事業を始めた。
- ・H14～H17の間のモデル事業で、診断基準の確立がある程度できた。
- ・H18からは、支援普及事業として拠点を設け、支援している。
- ・国立障がい者リハビリテーションセンターを核として、2か所の拠点支援機関を設置。
(川崎医科大学付属病院・ひらた旭川荘のぞみ寮)
- ・小児支援や失語症にも取り組む。
- ・外来は、川崎医科大学で。
- ・協力病院は、保健所1か所に1, 2か所は存在する。
- ・政令市も含めて県が行っている。
- ・啓発や研修など。